

環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	10	事例№	7	依頼者	愛知江南学園誠信高校	実施場所	愛知江南学園誠信高校 誠修館（武道館）
実施対象	高校1年年生（8クラス 240名）						
実施日時	令和5年11月27日（月） 15時30分～16時20分						
テーマ	環境について学ぶ						

●依頼内容

生徒がグループワークを通して環境について学ぶ授業の講師を紹介してほしい。

●講師：原 理史 氏 （中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD-SDGs センター）

原氏は EPO 中部および中部大学中部高等学術研究所に所属するとともに、中部地方 ESD 活動支援センター担当責任者、名古屋産業大学大学院非常勤講師などを務めている。これまで、子どもから大人まで様々な年齢層を対象に、ESD をはじめとする環境問題に関わる各種講演会の実績がある。

●授業の内容

講義	「身近な生活から地球環境を考えよう」というテーマで、パワーポイントを使って講義が行われた。20 世紀後半からの人間活動の爆発的な増大によって地球環境は限界に近づきつつあるとされ、そのため国連で SDGs の目標が定められ、目標達成に向けて様々な取組が進められているということについて学んだ。また、我が国における SDGs の目標達成度や気候危機と呼ばれるほどの異常気象や気象災害の実態についても学んだ。	20 分
クイズ	地球環境問題に関わる①食、②生物、③エネルギー、④プラスチックごみという4つの分野のクイズに挑戦した。クイズの回答と解説を聞いた上で、「食事をする時」「生き物に接する時」「エネルギーを使用する時」「プラスチックの使用の是非」に関して、私たちはどんな行動をとるべきか、また地球にやさしくするために何ができるのかについて考えた。	15 分
SDGs ワーキングシートづくり	ワーキングシートづくりに先立って、講師から、「うどん屋さんの取り組み」や「お風呂に入ること」を例に、SDGs は私たちの暮らしに身近なものであることが説明された。それを踏まえて、生徒は日常生活の中の行動を一つ取り上げて、SDGs の 17 の目標との関係性について考えた。そして、SDGs に貢献するため、あるいは足を引っ張らないために、自分自身はどう行動するかについてワーキングシートに記入した。	15 分

●授業の様子

授業は、武道館を会場に8クラス合同で行われた。座学では、「気候変動」や「SDGs」といった普段よく耳にする言葉だけではなく、「人新世」や「プラネタリー・バウンダリー」といった聞き慣れない言葉の説明も行われ、生徒たちは真剣に話を聞いていた。SDGs ワーキングシートづくりでは、自らの「身の回りの行動」を一つ選び、SDGs の 17 の目標とどのように関係しているのか、また、その目標達成に貢献するためにはどのように行動したら良いのかについて考え、ワークシートに記入していた。

パワーポイントを使って環境問題について学んだ。



SDGs ワーキングシートを使って自らの行動について考えた。

